

総合的な学習の時間の課題設定の在り方

長期研修員 八 幡 憲 昭

Hatiman Noriaki

要 旨

置籍校がある大和高田市は、奈良盆地中南部の商工業の中心として特色ある歴史を有し、伝統行事も多く、学校の周辺には公共施設なども多数ある。このような地域の特色を生かし、地域をテーマとした「総合的な学習の時間」の課題設定の在り方をどのようにすべきか、また、どのような教材開発が必要なのかを探る。

キーワード： 地域素材の課題設定、課題設定の条件・必要な力、教材開発

1 はじめに

平成10年の学習指導要領の告示によって「総合的な学習の時間」が創設され、小・中学校では、平成14年度から完全実施されて2年が経過した。各学校では、「総合的な学習の時間」の実施について、当初、戸惑いもあったが、様々な工夫がなされ、一定の成果が見られるようになってきた。

「総合的な学習の時間」では、地域学習がテーマとなることが多い。生徒自身が自分の住んでいる地域の文化や伝統・歴史・産業・自然などを学習することで、今まで知らなかった地域のことを知ることになり、地域に対する愛着が生まれ、自分の生まれ育った地域のことを誇りに思うようになる。

前任校でも、地域をテーマとした「総合的な学習の時間」の授業実践を行ったが、子どもたち主体の学習を進めていくうえで、課題設定が特に重要であることを感じた。また、平成15年の国立教育政策研究所における調査でも、「総合的な学習の時間」を実施するうえでの課題が挙げられているが、その中にも、課題設定が難しいという点が示されている。このようなことから、「総合的な学習の時間」では深まりのある課題追究ができるテーマをいかに設定するかが重要だと考え、地域素材を活用した「総合的な学習の時間」の課題設定の在り方について、研究を行う。

2 研究目的

地域素材を活用した「総合的な学習の時間」における課題設定の在り方を探り、より深まりのある「総合的な学習の時間」の指導計画を作成する。

3 研究方法

- (1) 「総合的な学習の時間」における現状と課題についての分析
- (2) 地域素材を活用した課題設定の在り方についての考察
- (3) 「総合的な学習の時間」の指導計画の作成

4 研究内容

- (1) 「総合的な学習の時間」における課題設定の現状と課題

平成15年に国立教育政策研究所が行った「総合的な学習の時間」についての調査では、「課題設定前の体験に十分時間を取りたいが、時間が不足している」「自分の課題を見つけることができない生徒へどのように支援していくか」「課題意識を引き出したり、追究意欲を持続させたりするための教材開発をどうするか」など、課題設定が難しいことが挙げられている。

前任校で行った「総合的な学習の時間」の学習においても、発展性のあるテーマ設定をしたグループが少なかったため、単に調べてまとめた報告や体験だけのものに終わったという反省が残った。課題の設定は、「総合的な学習の時間」においてきわめて重要であり、以後の学習活動に関わってくるため、適切な支援をしながら、時間をかけて指導する必要があると考える。

(2) 「地域」素材を活用した課題設定の在り方について

ア 地域をテーマとした「総合的な学習の時間」の意義

生徒は、案外、自分たちの住んでいる地域について知らない。「地域」を学習することによって、新たな発見や地域の人々と出会いを通して、いろいろな生き方・考え方を知ることができる。また、地域に愛着が生まれ、地域をよりよくしようとする心をはぐくむことができると考える。

イ 効果的な課題設定の在り方（課題意識のもたせ方）

課題意識のもたせ方については、生徒の興味深い学習内容をいかに取り上げるかという点が、なによりも大切になってくる。「地域」をテーマに学習を行う場合には、生徒たちに毎日の生活に目を向けさせ、学習の意味付けを「自分の生活との関連」で考えさせることが必要である。

また、どんな視点で自分たちの住んでいる地域を見るかということも、課題を設定する上で大切であるとする。例えば、高いビルの上から自分たちの町を見たり、小動物になったつもりで町の中を歩いたり、昔と今を比べ未来の町について考えたりすることも課題を発見する手がかりとなる。

ウ 適切な課題設定の条件

適切な課題設定には、いくつかの要素があるが、次のような条件が必要であるとする。

- ・「総合的な学習の時間」のねらいに迫れるような課題であること。
- ・設定した課題に発展性があること。
- ・設定した課題が現在の生活につながりがあること。

エ 課題設定をするに当たり必要な力

課題設定に当たり、まず、必要なことは既習の知識や技能である。生徒が自ら学び、考え、主体的に判断する「総合的な学習の時間」において、観察力、話す力・聞く力、コミュニケーション力、読む力・書く力、調べる力が必要であるとする。そういったことから、各教科で学んだ知識や技能が効果的に活用されるようにしたい。

オ 地域教材の開発

「総合的な学習の時間」の「内容・方法」は、各学校が創意工夫することとなっている。つまり、各学校で教材開発をする必要がある。教材開発においては、生徒の興味・関心をこれまで以上に重視しながら、生徒が「探究心」をもてる「教材」を開発する必要がある。

また、地域をテーマにした「総合的な学習の時間」の場合、教師がいわば「地域の達人・鉄人」を目指す必要がある。そのためには、地域を歩き、地域の人々にいろんなことを尋ねてみる。常に、好奇心を燃やし、「いい教材はないか？」という視点で地域を見つめることが必要となる。教師が「地域の達人」になることによって、生徒たちが思った素朴な疑問に対して、助言や示唆ができ、課題が深まり、より本質的なものに発展すると考える。

地域素材を活用した教材開発の例としては、次のようなことが考えられる。

- ・地域の伝統行事の由来や現在の様子、それにどのように参加していくか。
- ・地域の産業（特産物）の発展した経過や現状、衰退しているのであればその理由。
- ・地域の施設のできた経緯とその現状、それにどう関わっていくか。

その他にも、文化・歴史・自然・地域の人々・町作りなど多くの内容が想定され、それらの中には、福祉の問題に発展する場合があったり、環境問題に発展するケースも考えられる。

(3) 「総合的な学習の時間」の指導計画の作成

「大和高田市探訪」を通して、まず、探究する力（自分で課題を見つけ解決していく力）や人とふれあう力（様々な人と交流し、情報を得たり、考え方や生き方を学んだりする力）そして、表現する力（自分の言いたいことを、相手に分かりやすく、しかも印象に残るように表現する力）の三つの力を生徒に付けることをねらいとして、以下のような指導計画を立てた。

ア 指導計画

「総合的な学習の時間」（大和高田市探訪）＜全40時間＞

第一次 課題設定（8時間）

- ・オリエンテーション・・・（本時 1時間目）

大和高田市について興味・関心をもつ。

- ・テーマの設定・・・（本時 2時間目）

大和高田市について調べたいことをまとめ課題をもつ。

大テーマ「大和高田市探訪」から自分とのかかわりを考え、イメージを膨らませる。

設定したテーマから班編制を行い、テーマや課題を再考する。

追究テーマの決定と班の役割分担

振り返り

第二次 課題追求（17時間）

- ・課題追求のための計画立案（5時間）

課題解決のための見通しをもち、調査計画を作成する。

振り返り

- ・探究活動（12時間）

調査、取材、体験、活動に取り組む。

振り返り

第三次 課題のまとめ・発表（15時間）

- ・探究活動のまとめ（6時間）

調べたことを分かりやすくまとめる。

- ・中間発表（1時間）

- ・振り返り（1時間）

- ・意見交流会（2時間）

- ・意見交流を踏まえてのまとめ（2時間）

- ・発表会（2時間）

- ・振り返り（1時間）

全体の取組や記録を整理し、学習を振り返る。

学習を振り返り、次の課題を発見する。（地域で、自分たちができることは何か）

イ 本時の活動

(1) 1時間目の活動

	学習活動	◇指導上の留意点	○評価	備考
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・この学習の目標を知る。 	◇資料を使って大和高田市について興味をもたせる。		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・大和高田市について知っていること、また、生活をしていて、疑問に感じていることなどを出し合う。 ・興味・関心がある事柄をピックアップする。 ・いろいろな視点からテーマや課題が設定できることを理解する。 	◇大和高田市についてできるだけたくさんの意見が出るようにする。 ◇意見が出ない場合、資料を提示する。	「課題設定能力」 ○課題となるような意見を出したか。 (生徒の発言) ○課題追究に向けて多様な視点で考えているか。 (生徒の発言)	資料 (弘法井戸の写真 おかげ祭りの絵) 一部紹介
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・追究してみようと思うテーマをワークシートに記入する。 	◇次回は、課題を追究する方法を考えることを知らせる。		テーマ設定シート

(2) 2時間目の活動

	学習活動	◇指導上の留意点	○評価	備考
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を振り返る。 	◇前時の意見を整理する。		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に話し合った課題を振り返る。 ・設定した課題の疑問点について、インターネットなどで調べる。 ・調べた結果について意見交流する。 ・設定した課題が追究テーマとして適切かどうか考える。 	◇インターネット検索の方法を理解させる。 ◇いろいろな視点から大和高田市を見て、各自の設定した課題が追究テーマとして適切かどうか考えさせる。	「課題追究能力」 ○設定した課題が適切であるかどうかについて、考えているか。 (テーマ設定シート)	テーマ設定シート
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習を振り返る。 	◇今回学習した課題設定・追究の方法を今後の学習に生かすことを理解させる。		

ウ 授業研究の成果と課題について

置籍校における授業では「大和高田市について調べてみたいこと」を挙げさせたが、生徒たちから出された疑問や課題は、すぐに解決できるような発展性のないものがほとんどであった。普段の生活に追われ、じっくりと自分たちの町について観察するゆとりがないこともその背景にあるのではないかと考える。しかし、いろいろな視点から見ることや疑問点を考えさせること、また、生徒が記入したワークシートにコメントを記入するなど適切な学習支援を行うことで、一つの課題から新たな課題が膨らんでいくような発展性のある課題も見られるようになった。

授業の後、生徒にアンケートを行ったが「調べたいテーマ設定ができたか」という質問（図1）に対して、テーマが設定できたと答えたのは50%であった。調べたいテーマが設定できなかった理由としては、指示されることはできるが、自ら進んで考える姿勢が乏しいことが考えられる。このような生徒については、時間をかけ疑問に思っていることを聞き、それに対して適切な助言を行うことが必要であると考えられる。

また、「設定したテーマは適切だったか」という質問（図2）に対して、50%の生徒が適切であると判断した。適切である理由として、「祭りの由来が調べられる」「靴下工場が多い理由や特産品であることが調べられる」「昔の高田や、古墳についても調べることができる」などがあつた。その反対に、適切でなかったとした生徒の理由としては、「時間内に、設定したテーマについての内容や疑問が調べられなかったから」や「検索方法が分からなかったから」というものであつた。生徒にとって、調べることができるか否か、疑問点が解決できるかどうか、テーマが適切であったかどうかの判断基準になっているのである。しかし、生徒が設定したテーマの中には、祭りの由来についての疑問や、池の真ん中に古墳がある理由、高田に靴下工場が多いことへの疑問など、さらに追究が膨らむであろうと思われるものも見られた。このことから、オリエンテーションにおいて、先に述べたような課題設定の条件（研究内容ウ）について、生徒に十分理解させる必要があつたのではないかと考える。

適切な課題設定ができなかった理由として、高田に住んでいながら、自分の町にあまり興味・関心がなかったり、日常生活の中で興味あることに気付かずに過ごしていたりすることもあるのではないかと考える。しかし、教師が適切な支援や助言を行うことで課題の手がかりを発見できる場合も

図1

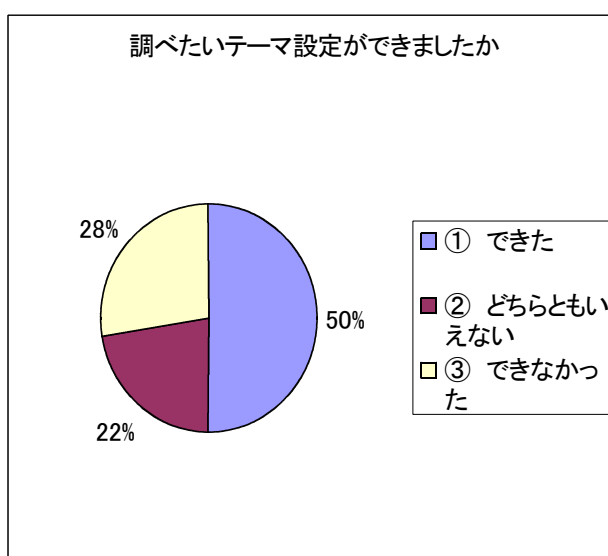
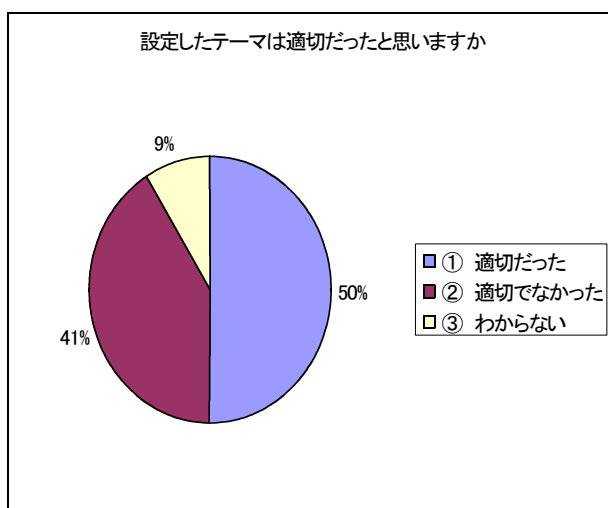


図2



ある。例えば、生徒から出された課題として「大和高田市には、どんな店があるのか」というものがあつた。授業の際には、適切な課題とはならないと考えていたが、研究内容のイで述べたように、「どんな店をイメージしているのか?」「どんな店が多いのか?」「大和高田市の駅と商店街の関係はどうなのか?」「昔の店はどんなものか?」など様々な視点から考えさせることによって、「大和高田市のガイドマップを作ったり」「商店街の昔と今の様子を比べてみたり」といった課題発見の手がかりにつながるのではないかと考える。このような疑問を教師が見逃さず、助言や示唆をすることにより生徒にとって、発展性のある課題につながるのではないかと考える。さらに、今の生活に関連した課題を発見し体験することによって、学習が一層深まると考える。

5 研究結果と考察

「総合的な学習の時間」において、主に地域素材を活用した課題設定の在り方について探ってきたが、研究を通して課題設定の仕方や適切な課題設定の条件、また、課題設定に必要な力が明らかになってきた。学習の支援や助言についても、教師が学習の見通しを持つことで、適切な助言もできると考える。

生徒が行った自己評価に、この授業によって資料を見つけたり活用したりする力が身に付く、学ぶことの興味・関心や自分で考え判断する力が身に付くと考えた生徒が多かつた。そういったことから地域素材を活用し、地域にかかわる課題を設定し追究していく学習は、「総合的な学習の時間」のねらいに十分迫ることができると考える。また、体験的な活動を重視する総合的な学習において、校区や地域はその活動の場であり、最も身近な存在である。さらに、地域を教材化することにより、地域の人々と交流ができ、生徒たちは、自分たちの身の回りにある現実や問題点を再発見することになる。

6 今後の課題

「総合的な学習の時間」の課題設定の在り方を主題として、研究を進めてきた。生徒の素朴な疑問をいかにして適切な課題へと導いていくか、ということが重要だと考える。そのためには、まず教師が教材について十分な研究を行うことで、適切な助言や示唆、生徒の課題発見能力の向上につながるかと考える。

今後、さらに生徒の探究心を育てるために、「学び方」を体得させるにふさわしい教材を開発する必要があると考える。

参考・引用文献

- (1) 有園 格 小島 宏 編著 「中学校の総合的な学習」 ぎょうせい 1999
- (2) 国立教育政策研究所 インターネットにおける教育実践情報の動向分析 2003
- (3) 平野 朝久 著 「子どもの学ぶ力が育つ総合学習」 ぎょうせい 1997
- (4) <http://www2u.biglobe.ne.jp/~kouda/mokuzi.htm> 中学生のための地域調査入門
- (5) 佐賀県教育センター 「生きる力」をはぐくむ「総合的な学習の時間」 1999
- (6) 有田 和正 著 「はてな？」で総合的な学習を創る先生 図書文化社 2000
- (7) 加藤 幸次 著他 中学校の総合的な学習 小学館 1999